

生 研 ニ ュ ー ス

創刊 1 週 年

生産技術研究所の創設が国立学校設置法にもとづき官報で公布されたのが昨年5月31日、11月には開所披露の式典があつたが、“生産研究”は式典に先んじて、10月1日創刊した。爾來、本誌發刊の使命とするところを忠實に實行し、毎月定期の發行も少しも違ふことなく實施されてきた。本誌は發刊の際にも述べたとおり、廣く國內の産業技術界と結びつき、生産技術上の諸問題をとりえて解決していこうとすることにある。したがつて母體である生産技術研究所の發展が本誌に影響することは自明であるが、本誌がまた、生産技術者との媒介役を果すことがきわめて重要となる。大學が社會から隔離された存在であるかのように思われていたとしても、それは過去概念である。本誌の編集會議はいつもこの問題を新しい問題として、しかも初心の修業者のような心持で討議している。部外者殊に讀者諸氏から寄せられた鞭撻や忠告・叱責に對しては、處女のような氣持でこれを聴いてきた。いろいろのありがたい刺激は、過去1年間に正規の編集會議だけでも延 1,600 時(4時×16人×25回)を割かしめた。駆けめぐる蟻 10 匹のうち、7 匹までは遊んでいるのだそうだが、編集委員一同は蟻とは全く同日の談でないことを報告して、第2周年への決意をお傳へする。

編 集 後 記

◇「生産研究」も創刊以來すでに1年を経て、これからいよいよその眞價を問われる時期であるとし、われわれも大いに張り切つてゐる。さて前年度の前半は一般號としてこの研究所の研究成果の發表に重點をおいたが、専門が多岐にわたり、まとまりが悪いとの批評もあり4月號からアルミニウム、寫眞、鎮夏、冷凍、工業計測といった特集テーマに重點をおいた編集方針にきりかえて、一つの焦點に各種の専門を協力させ、他では得られない長所を發揮しようとした計畫編集の苦心を買つていただきたいと思う。短時日と未経験のため充分な成果は上つていないにして

も、今後のテーマや編集方針についてどしどし御注文をいただき皆様のお役にたつものとしたと考えている。
◇この10月號は、一週年紀念としていろいろの専門分野を綜合したテーマというので、わが國の工業技術の中で特に劣つてゐると考えられる工業製品の仕上げ、意匠の問題をとりあげ、造型能力においては決して遜色のないわが國が、本腰をいれて教育練磨に努力さえすれば、世界一流のレベルに達することができるインダストリアル・デザインへの關心を高める一助とした。これによつて日本の製品が少しでも美しくなり、國民生活がうるおえば幸である。(S.H. 1950・8・25)

編 集 委 員

編集委員長	星 合 正 治
編集委員	三 木 五 三 郎
	* 鈴 木 弘
	* 元 良 誠 三
	齋 藤 成 文
	* 星 野 昌 一
	淺 原 照 三
	松 下 幸 雄
	小 川 正 義
	江 口 雅 彦
	森 大 吉 郎
	鳥 飼 安 生
	武 藤 義 一
編集幹事	下 村 潤 二 朗
編集室	水 野 晴 明
	(* 印は當番委員)

表紙説明：

世界最大のスパン(3,200)呎をもつ金門橋、6車線と人道が36.5吋の鋼索で、高さ746呎の高塔に吊られてゐる。

第2巻第10號 生産研究 定價 120 圓(郵税 6 圓)
1950年9月25日印刷 1950年10月1日發行

編 集 者 星 合 正 治
東大生産技術研究所
千葉市千葉局内彌生町
電話 千葉 366-370
發 行 者 小 川 誠 一 郎
印 刷 者 井 關 好 彦

印 刷 所 大 同 印 刷 株 式 會 社
東京都千代田區神田錦町 3-1
發 行 所 株 式 會 社 誠 文 堂 新 光 社
東京都千代田區神田錦町 1-5
電話 神田 (25) 2126-2130
振 替 東 京 6294・6567